

一家を擧げて南米へ

多數の出席を歓迎

平町新町織物業岡部吉次郎

氏の一家十名即ち

吉次郎(五)カネ(五)澤雄
(三)タカ(三)清(二)ヨシ
ヨ(一)生(一)幸夫(八)至
宏(五)満理夫(三)

の諸氏は南米ブラジルに開

拓の雄圖を抱き來月五日出

發の豫定である爲め石城方

面其經濟委員會、平町青年團

回女子青年團の各團體發起

にて其行を壯んにすべく卅

日午後七時より常磐銀行平

支店樓上に於て送別茶話會

を開く事になつたが會費は

五十錢、出席希望者は廿九

氏宛申込されたしと

麥作は

割減收か

海邊が不作

石城郡内の麥作耕作反別は

約二千七十五町歩で前年を

大差なくも收穫は前年の三

萬五千七百五十六石に比し

約一割は減收の模様である

これ等の主因とするところ

は酷寒に加へて著しく乾燥

したため海岸地りである江

名町附近の町村は殆んど風

土作は比較的發育良好で

どうやら半年作には廻る見

込である割合には減收も比較的

ある割合には減收も比較的

受賞兒童名

平第一第一の

各卒業生にて

平第一第二兩小學校にては

昨日卒業式を舉行したが兩

大差なくも收穫は前年の三

萬五千七百五十六石に比し

約一割は減收の模様である

これ等の主因とするところ

は酷寒に加へて著しく乾燥

したため海岸地りである江

名町附近の町村は殆んど風

土作は比較的發育良好で

どうやら半年作には廻る見

込である割合には減收も比較的

ある割合には減收も比較的

ある割合には減收も比較的

ある割合には減收も比較的

ある割合には減收も比較的

求人は少い

平紹介所閉口

求職が多く

職者は一ヶ月平均六七十人

に達しこれを一ヶ月に通算

すれば七百餘人となつてゐ

るがこれ等求職者の多くは

各地工業地において勞働し

機械の進歩に伴ひ從來五十人

可認物便郵種三第

(號四五百五十一第)

開新日毎磐常

(日曜火)

日六十二月三金四和昭

(三) 可認物便郵種三第 開新日毎磐常 (號四五百五十一第)

鹿島の村債

復興に二萬圓

石城郡鹿島村では去月廿五

木部長出席する由

平町會開く

昭和三年度事業繰延り件

同特別會計水道給水事業

費豫算更正の件、昭和四

年度土木費補助申請の件

件、區長及區長代理選定の

件

本廿五月午前四時半平驛發

郡山驛行貨物列車が川前夏

井間に差懸つた際線路に大

石塊が機關車は夫れに乗

り上げて前車軸脱線約冊分

土手を切り崩した爲め轉げ

落ちたのであると

産婆の卒業生 平町

一丁目石城産科婦看護婦學

校にては本日卒業式を舉げ

たが卒業生氏名左記の通り

(イロハ順)

▽産婆科 稲葉文子、今

宮カメヨ、伊藤サカエ、今

飯島マツヨ、猪狩ハナヨ、早

新妻松子、戸川ナツノ、渡

川島はる、金成ヤス子、高

木タキ、佐藤サダ、佐藤サ

シゲエ、大橋一夫、相馬星雄

矢吹博信、柴光雄、清野幸

雄、高橋一男、相馬星雄

中島英一、關内三郎、高野

昌久、中村芳郎、鈴木忠

田保敏、小川喜、皆川喜

雄、佐藤文男、藤田

中野徳郎、桐谷義男、佐

々木健夫、堀川正一、鈴木

雄、高橋實、石坂光雄

中島英一、關内三郎、高野

昌久、中村芳郎、鈴木忠

日の大火の際走熊、倉村の二部落が全焼したのでその後復興に就て夫々對策を講じつあるが復興に要する資金は相當多く今回二萬圓の村債を起すことになった

の村債を起すことになった

といち、志賀チヨ子、柴田ツ

ユ、蛭田初關イチ、鈴木は

な、鈴木マスノ、谷本トヨ

、鈴木マスノ、谷本トヨ

日明豫天

北西の風

大体天氣

よけご次

第に曇る

要した從業員も二十人乃至三十人で間に合ふ事となるため勢ひ減首に遭ふとか又は極度の不景氣に會社縮小及び解雇等に依り當然失職の止むなきに至るなど相当氣の毒な境遇に置かれてゐる者でこれ等の就職紹介に就いては特に最善を盡めて僅少で實際就職する者はその何分の一に過ぎざるがこれ等求職者の多くは各地工業地において勞働し機械の進歩に伴ひ從來五十人

トト困つてゐる

募集

文藝其他投稿

を募集します

よ、阿部せつ、佐々木

子、木村たけし、木田千代

子、中野いね、生田日

子、武藤綾子、草野い

子、草野こし子、古川梅

子、小泉正子、會田こす

え、青木松代、青木さく

崎はつい、鈴木うめ、鈴

木いね、鈴木み、鈴木

よし子、志賀たしの、篠

崎はつい、鈴木うめ、鈴

木いね、鈴木み、鈴木

よし子、志賀たしの、篠

崎はつい、